

美しい音をだすには

① 正しい姿勢

背すじをのばし、肩やうでに力が入らないように、楽にかまえましょう。座奏の時は机にひじをつかないようにしましょう。



② フィンガリング(指づかい)

うらの連指表で正しい指づかいをおぼえましょう。また、リコーダー演奏で音孔を完全にふさぐことはとても大切です。指の腹のやわらかい部分で音孔をおさえましょう。おさえる時は指を見ないでおさえる練習をしましょう。

③ 適当ないきの量

適当ないきの量で演奏することが大切です。いきが強すぎたり弱すぎたりすると、音がひっくり返ったり、正しい音程、美しい音色が得られません。音がふるえないように音がまっすぐ伸びるようにいきを調整しましょう。

④ タンギング

吹きはじめは上の歯の根元にかかる舌をあててtu「トゥー」またはdu「ドゥー」と発音する要領で声を出さずにやさしいいきを吹き込みます。音があまりするどくならないように注意しましょう。

⑤ 高い音をだすには

高い音を美しく発音するためには、図のように左手親指を立てて音孔に約1/4のすきまをつくります。すきまが大きすぎると発音しにくくなったり、正しい音程が得られなくなりますので注意しましょう。また、タンギングをti「ティー」と発音する事でよりクリアな音を得られます。



⑥ 低い音をだすには

やさしいいき(あたたかいいき)で演奏しましょう。音孔が完全にふさがっているかを確認しましょう。また、タンギングはdu「ドゥー」、ro「ロー」など、やわらかく行なってください。

⑦ ピッチ(音高)の調節

他の楽器と合奏する時などは、頭部管を抜き差しすることによりピッチを調節することができます。頭部管を抜くとピッチは下がり、差し込むとピッチは上がります。

取扱いについて

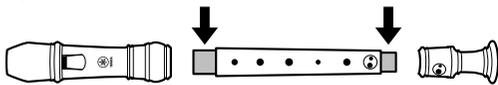
ふりまわさないで!

楽器をふりまわすと、まわりの人にケガをさせる危険があるので絶対にやめましょう。



● 組み立て方

リコーダーを組み立てるときは、中部管のつなぎ目に付属のリコーダークリームを塗りましょう。



※ クリームがなくなったら、お近くの楽器店で『ヤマハリコーダークリーム』をお買い求めください。

※ YRS-27III、YRS-28BIIIにはリコーダークリームが付属していません。(注)

● 楽器を吹く前に

吹く前に手のひらなどで十分に頭部管をあたためてから吹きましょう。冷えているリコーダーにあたたかいいきを吹き込むと水滴がたまりやすくなります。

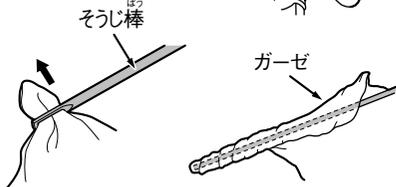
● 水滴がつまったら

ウィンドウェイに水滴がつまったら、ピーツとならないように窓の部分をおさえ、強いいきをふきこみましょう。



● 楽器の手入れは

演奏が終わったらガーゼなどでいいに水分をふきとりましょう。付属のそうじ棒にガーゼを巻きつけて、管内側の水分もふきとりましょう。



- ラビュームのまわりは、音をつくる最も大切な部分ですから、特にキズをつけないように気をつけてください。
- ベックの部分はよごれやすいので、いつも清潔にしておきましょう。
- 管の外側についたよごれは石けん水をふくませた布で、つなぎ目のクリームがとれないように注意しながらふいてください。ベンジンやシンナーは使わないでください。また、リコーダーの熱湯煮沸はおやめください。リコーダーが変形する可能性があります。

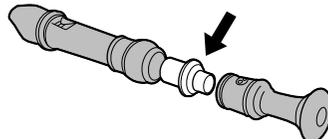


YRS-27III/28BIIIにはそうじ棒が付属していません。(注)

(注) リコーダークリーム、そうじ棒は別途お買い求めいただけます。

捨てないで!

アルトリコーダーに付属の「頭部・足部管キャップ」は、ケース収納時の本体ジョイント部同士の接触によるキズ付きや破損を防ぐものです。捨てずにご利用ください。



※ アルトリコーダー以外のリコーダーに「頭部・足部管キャップ」は付属していません。

指かけの取り付けかた

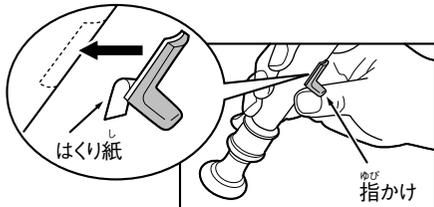
取扱いの注意

指かけを使わないとき

まちがって飲みこむおそれがありますので、幼児の手のとどかないところへ保管してください。

- 本体表面の油分、水分をよくふきとる。
- 指かけのはくり紙をはがす。
- 右手でリコーダーを持って親指の位置をあわせる。
- 親指の位置にあわせて指かけを取りつけ、しっかりとおさえる。(一度取りつけると取りはずしがむずかしいので、位置は十分に確かめてください。)

※ 指かけが取れたときは、お店で売っている両面テープをはってください。



※ ソプラニーノリコーダーに指かけは付属していません。

